



牛乳おいしい
なあ♪

上・右／「伊深ファーム」でのミルクや餌やり体験。子牛へのミルクやりが印象に残ったという参加者も多くいました。



上／2日目は広洋水産から講師を招き、秋鮭の解体といくらの醤油漬体験でスタート。昔はいくらを網でこすりながら落としていたことを知り、参加者は衝撃を受けていました。

こんなに近くで牛を見たのはじめて～



上・左／2日目の昼食では、朝に自分たちが漬けた「いくらの醤油漬け」や「秋鮭のムニエル」などを食しました。参加者は「白糠では何を食べてもおいしい」と舌鼓を打ち、いくらか秋鮭を存分に味わっていました。

験、伊深ファームでの酪農体験を行い、昼食はやまびこ会館で自らが漬けた「いくらか」や秋鮭のムニエルなどを堪能しました。
午後からはアイヌ伝承儀式「ししゃも祭」や岬の森東山公園などを見学し、ツアーを終えました。

モニターツアーを担当した、ふるさと納税推進係では、今回の反省点や課題、参加者からの意見などを生かし、体験型返礼品の構築に向けて検討を進めていきたいと考えています。

モニターツアーの事後アンケートでは、東京都から参加した10代の方が「初めて北海道に来ましたが、白糠町は北海道の魅力が詰まった町だと思いました。農業者への支援や子育て支援も充実しており、将来、子どもができたなら白糠町で暮らしたいと思いました」。茨城県から参加した30代の方は「地元ではできない貴重な体験ができて、白糠町のが好きになりました」。東京都から参加した50代の方は「大満足のツアーでした。今後の意見としてですが、ふるさと納税の寄付者にはいろいろな年代の方がいると思いますので、たとえばファミリー層対象ツアーや高齢者対象ツアーなどというように、対象年齢を絞ることによって、その年代に見合うプランができて、より充実したツアーになると思います」といった感想をいただきました。



2日目



上・右／「田中農園」では大豆の収穫作業を行いました。貴重な体験ができた参加者は喜んでいました。



わたしも働きます♪



上／「もりもりふぁーむ」ではトラクターへの試乗体験ができて、子どもたちは大はしゃぎ。安全には十分配慮しています。

右／「チーズ工房白糠酪恵舎」では、チーズ作りを見学。最後はソフトクリームを食べて「おいしい～」と舌鼓。



1日目

将来は農家になろうかな？



上／「ポコロ」を見学。このような施設が無料で見学できるということに、参加者は驚いていました。



上／1日目の昼食は多目的交流施設でバーベキューとチーズフォンデュ。「希少な国産羊肉を食べることができてうれしい」と参加者。右／昼食時に参加者と町長、スタッフで記念撮影。



白糠の食や自然を満喫
モニターツアー実施

11月2日、3日の1泊2日の日程で、ふるさと納税の寄付者を対象としたモニターツアー「大人も子どもも楽しめる社会科見学@白糠町」を開催しました。

前年度、本町のふるさと納税の寄付件数は107万4349件、寄付額は167億7842万円と、寄付件数も寄付額も増加傾向にあります。農業や漁業などといった、第一次産業を生かした体験型のお礼の品が少ないという課題がありました。そこで、新たなお礼の品を検討するためのモニターツアーを初めて企画しました。

ツアーには40件の応募があり、その中から東京都、埼玉県、茨城県に在住する4組15人の家族に参加してもらいました。

初日、参加者はチーズ工房白糠酪恵舎の見学にはじまり、「もりもりふぁーむ」での農業体験や、「田中農園」での大豆収穫体験、白糠アイヌミュージアム「ポコロ」と逍遙公園のイルミネーションを見学しました。

2日目は、いくらの醤油漬体験